

## 本別町総合計画等審議会（第3回）議事要旨

期日 令和6年11月26日（火）18:30～20:15

会場 本別町役場3階会議室

### 1. 開会【事務局】

お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので総合計画審議会第3回を開催させていただきます。

お手元の資料を確認させていただきます。審議会第3回次第、町民アンケート、広報ほんべつ12月1日号、下堀委員から計画に対する意見、委員名簿です。

これからの進行は、会長をお願いします。

### 2. 会長挨拶【会長】

会長の松野です、お忙しいところどうもありがとうございます。

本日は、「前回の残り分」と「今後の本別町がどのような取り組みに力を入れるべきか、委員、お一人毎に」ご意見等をお伺いいたします。

どうぞよろしくをお願いします。

### 3. 報告【事務局】

第7次本別町総合計画(後期基本計画)策定等に関する町民アンケートについて一般町民分アンケートについて、前回の審議会でご意見をいただきました通り、無作為抽出1,000通に加え、町広報にQRコードを記載し、抽出されなかった方にもお答えいただくようにいたしました。1,000通の無作為抽出ですので、委員の方につきましても抽出された方、また、されなかった方もいらっしゃると思います。抽出されなかった方は、QRコードで回答が可能です。

中・高校生へのアンケートですが、前回策定時のアンケートとの比較もありますので、一部追加はありますが、前回同様のアンケートとしています。中学校が、113名、高校が84名となっています。（※資料添付、参照）

### 4. 意見交換

#### 【会長】

ここで、下堀委員から提出のありました意見について発言いただきます。

#### 【下堀委員】

別紙資料に沿って説明（※資料添付、参照）

#### 【会長】

下堀委員からの意見、また、全体通して何かご意見等々質問等々ある方は発言いただければと思います。

#### 【委員】

以前、インターネットで新冠町の「地域おこし協力隊・農業支援員」募集について情報を得ました。新冠町では、新規就農などの担い手づくりや農業（農家）における労働力の補完と合わせて、地域活動を支える人材を確保することにより、農業振興と地域活性化をめざし、農業で自立をめざす方を支援している。現在もその制度が続いています。（※資料添付、参照）

条件も良く、3年間、サラリーマンのように、給料、扶養手当、住宅手当なども支給されます。

#### 【委員】

おっしゃるとおりです。新冠町は、ご承知のとおり軽種馬の産地として栄えました。その後、軽種馬が厳しいことから、ピーマン、トマトの産地として発展しています。新規就農も充実しています。（※別添資料のとおり）

ただ、本別の場合、大規模農業となることから難し面があります。ここは、農協等、関係機関と議論しなければなりません。

#### 【委員】

以前、高知県馬路村の取組について、お話を聞いたことがあります。

最初は、中々売れない商品が電車での中吊り宣伝等で販売を伸ばしたとお聞きしました。また、緩衝材として落ち葉やタオルを入れるなどの工夫も良いことと感じました。

また、最近の講演で「その町の良いところをPRするのは勿論だけでも自分たち自身が好きになってワクワクして、どんなことが出来るだろうっていう気持ちからまず発信していくのが

大切」と聞き、馬路村のゆずのキャッチコピー「お兄ちゃん 帰ってくる言うたやないか」は、消費者を引きつけるPRで、すごく必要なものと感じます。

**【委員】**

「お兄ちゃん 帰ってくる言うたやないか」は、土佐弁のキャッチコピーは、面白いんですよ。

**【委員】**

本町でも数年前に、6次産業化のワーキング会議に参加した記憶があります。ただ、その後どうなったか分かりません。終わってしまったのですか？

**【委員】**

今のこともそうですが、計画を立てて、検証が無い中で進んでいることが良くない。

**【事務局】**

検証は必要と思います。

総合計画、総合戦略ともに数値目標を定めています。このことから、委員のおっしゃる通り検証をしてきます。（総合戦略における数値目標及びKPI数値設定 ※別紙のとおり）PDF

**【委員】**

現計画の26頁、重点的な取り組みの第2項「障がい者福祉サービスと障がい者雇用の充実を図ります。」について、中々、取り組まれていない。役場に限らず、商店さんについても、障がいのある人が地域で生活するには、暮らしぶらい状況です。

また、先日開催された「誰一人取り残さない地域をつくる」の講演会がありました。それを聴いて、本別もこんな取り組みをすれば良いと感じました。講演を聴いて、終わりじゃなくて、よいことを取り入れることが必要です。

**【委員】**

前回の審議会で、計画上、「循環型農業の形成および農業活性化のため、家畜ふん尿を適切に処理し、たい肥やエネルギーとして利用していくことを進めます」とされていることから、事業主体がどこであれ、バイオマス発電を進めていく必要があるのではないのでしょうかと、発言しましたが、最近いただいた資料の中で、ふん尿は、環境問題の発生源としての側面がある一方で、適切に使用することで、肥料としての有効活用が期待される。7割以上の方が、ふん尿を堆肥化して土に戻すことで、農薬等の使用を少なく、持続的な農業生産につながるということです。

このことから、前回の発言について、撤回をしたい。

**【事務局】**

委員の発言は、計画に対してのご意見であり、新しい資料で多くの方がふん尿の利活用をしていることから、後期計画については、その書きぶりは変更になると思います。

**【委員】**

旧南保育所の跡に出来た、宿泊施設（しごと体験交流館）について、あまり利用が無いように見えるが、PR不足も含め、どんな時に利用出来るが分からない。（※資料添付、参照）

**【事務局】**

未来創造課の所管施設になります。町内において就労体験や研修を行う方が一時的な生活の拠点として、宿泊いただくための受入施設です。利用できる方は、町内の事業所等で、しごとの体験や実習を行う方や町内を会場に開催される研修会参加者など、本町における就労体験や研修の計画を持った個人や団体が使用できます。

**【委員】**

以前の審議会でもお話ししましたが、JA本別町のホームページから「1日農業バイトデイワーク」につなげると、1日単位で農業のバイトをするサイトにつながります。

ほとんどの方が通いで働いています。車中泊の方は、本別に温泉が無いので足寄や池田に人が流れると聞きます。

**【委員】**

以前から、縦割行政の弊害があることから、横断的な行政の仕組みづくりが必要だと言われていますが、中々、進んでいないように思える。

**【事務局】**

全ては在りませんが、その傾向がみられることもあります。役所内の情報の共有が大事です、何かうまい仕組みを作って、いけばいいのかなっていうふうには考えています。デジタルを使用する方法もあります。

**【委員】**

例えば、障がいを持つ子供の場合、小さい頃は、「児」なのでこども課、成長していくと「者」となり保健福祉課の担当になります。共有出来ないのかと感じます。

**【事務局】**

制度的には子ども未来課で行う手続きと保健福祉課が担当となるものがあります。あっちだ、こっちだで無く、両者で共有することが大切と感じます。

**【事務局】**

先ほどの委員の発言にもありますように、例えば、「農業」という視点だけで政策を進めるのではなく、その中に「福祉」「移住」も関連してきます。

現計画について、「1.農業」から「22.開かれた町政の推進」の22の政策分野に分けてますが、計画づくりの視点の持ち方も横断的にしなければならないと思います。

**【委員】**

広報ほんべつ11月1日号で周知された「老朽化した特別養護老人ホーム 太陽の丘複合ゾーンの整備」について、どのくらいの方が知っていますか？

老人ホームに入所されている人、または今後、特別養護老人ホーム等への入所が必要となる要介護3から要介護5までの人については、アメニティ本別へ30人、その他の方は、太陽の丘の複合ゾーンに介護度等に関わらずに入居することが出来る住宅を整備するほか、温浴施設も整備する計画です。この様なことがあまり、知られていないと感じます。

**【事務局】**

向陽町に定員50人の特別養護老人ホームがあります。老朽化により、建て替えが必要です。それをどうするか、ここ数年、協議してきました。その結論として、先ほど、委員さんの発言のとおり、10月1日号広報で発信されました。

本町の場合、他の町村から見て、老人ホーム等の施設が整備されており、介護保険料負担額や今後の高齢者数の減少をみたとき、老人ホームを新設しないで、広報にあるとおり、アメニティ本別へ30人、その他の方は、太陽の丘の複合ゾーンに介護度等に関わらずに入居することが出来る住宅に入居いただきます。

**【委員】**

実は、親が高齢になり、サポートも必要になってきています。「福祉のまちづくり」を進めているのに、老人ホームを新設しなくて大丈夫なのか？

**【委員】**

個別のケースについては、ケアマネージャーの対応となります。

5. **委員、一人ひと言**

**【会長】**

町の将来を考えると、人口減少はあまり好ましくないのではないかと個人的に思います。本別に転入して2年程度ですが、本別が寂れていくのは非常に悲しいと感じています。本別町に来てくれる人や往来が増えるようにする必要があると思います。本別町を訪れる目的を増やすべきです。本別町に何があるかを考えると、農業などの一次産業や地理的な要因も非常に重要だと思います。

農業について考えると、先ほどお話がありましたが、1日だけ働いてみるといった体験が本別町にいらっしゃる方々にはあるようですので、そのような人たちのニーズを農家に確認し、様々な人々が本別町に来るような政策が必要です。また、温泉なども考えられます。多くの地域と連携し、農業体験に来てくれる人を増やす方策を考えていった方が良いのではないかと思います。

地理的な要因については、例えば帯広市や釧路市のベッドタウンになれないか、そのような要素を活かすことが必要です。また、土地も十分にあると思います。千歳のアウトレットが閉鎖されたことを受けて、人を呼び込むために新しいアウトレットを作ることは可能でしょうか。さらに、高速道路が釧路まで通じたことを考えると、物流の拠点として企業を誘致することも必要です。お話が抽象的になってしまいましたが、「町の強みを活かす」ことに力を入れるべきだと思います。

**【委員】**

力を入れるべき事業に順位を付けるとすれば、産業振興、特に農林業の振興です。現在特に厳しい状況にあるのは酪農家です。数年前には、TPP協定の締結に伴い、国の政策で大規模な

設備投資を借金して行いました。その後、ウクライナ戦争が影響し、飼料の高騰や牛乳の値段、生産調整が大きな問題となっています。酪農は広範に関係があり、獣医師や農協職員、牛乳を搬送するタンクローリーの運転手、複数の農機具会社に影響を及ぼします。本別町は農業から始まった町であるため、農業を中心に力を入れるべきだと感じています。

**【委員】**

以前から、高速道路を活かしたまちづくりを訴えてきました。12月には釧路まで高速道路がつながる予定ですので、その活用が重要です。

**【委員】**

北海道糖業と明治乳業が撤退していきます。それに見合った魅力のある企業が必要です。若い人が働ける職場がなければ、人口減少は止まらないでしょう。もう一つは子育て支援です。子供を産み育てる環境を整えることが必要です。

**【委員】**

北海道糖業と明治乳業の撤退後、新たに鹿などのジビエ食材の製造も良いのではないのでしょうか。また、非農家である農大生に本別での就農の流れを作ることも良いアイデアだと思います。

**【委員】**

広報を見ていると人口が減っていると実感します。亡くなる数に対して出生数が追いつかない状況です。若い人が少なく、移住したくても働く場がなければ進みません。子育て支援として出産祝い金を出しても、高校や大学進学で町を離れることが多いです。本別高校の支援に大金を補助しても、町に残る人数は限られています。働く場が必要です。

本別公園も整備されていますが、小さな子供が遊べる場がありません。近年、上士幌町や更別村の人口が微増しています。PRの方法も上手で、子育て中の母親が入手しやすい情報を提供しなければなりません。町広報を読まない方が多いと感じています。

**【委員】**

周囲でも離農が多くなっています。息子たちの時代にはどうなるのか不安です。孫もいるので、将来的にも明るく本別で過ごしていきたいと思っています。幼児の検診時に、若い保護者に相談できる場があれば良いと考えています。

移住施策も重要ですが、今ここに住んでいる人がこの先も長く住み続けたいような施策が必要だと思います。

**【委員】**

役場だけでは限界があります。町民の皆さんと共に取り組むことが重要です。楽しみながらまちづくりに関わることが必要です。

地域の宝を発掘し、その魅力を高めるために、農業や福祉、さらには医療を包括した取り組みを続け、情報を発信し続けることで、外部から人々や知恵、技術が集まります。そして、それが循環していくのではないかと考えています。この計画がそのように進展することを願っています。

**【委員】**

一次産業が元気でないとすべてが回っていかないのではないかと考えています。物流拠点の整備やストックヤードも必要だと思います。企業誘致ができれば良いと思います。

また、岩手の高校存続について、廃校になる場合は1億5,000万の経済損失があると聞いたことがあります。商店街のシャッター街が寂しく、買い物難民がいるため、移動店舗が必要ではないかと感じています。

**【委員】**

農業関係が重要だと思いますが、親が高齢になると、介護が必要な場合、どこに相談すれば良いのか分からない状況がありました。町民の方が困ったときにどの課に相談するべきかを周知していただきたいと思います。つながりができることで、本別に住み続ける流れが生まれると思います。

**【委員】**

皆さんと同様に、町の人口を増やしたいと思っています。自動車整備工場を運営していますが、同業者がどんどん廃業している現状です。また、技術の進歩が早く、勉強をしても追いつけないことが実情です。

本別高校の存続について、普通科だけでなく福祉科なども検討することで、若い人も集まる

のではないかと思います。高齢化が進んでいるため、高齢者の移動手段も課題と考えています。また、Uターンによる移住促進も力を入れていただきたいです。

文化の振興も重要ですが、高齢化の影響で文化の継承も難しい状況です。若い方々の協力が必要だと思います。人口を増やすための取り組みが必要です。

**【委員】**

教員として、管内を転勤で移動しています。それぞれの町の比較として、町の財政力が大きな要因です。お金のある町は教育予算も多く配分されます。これにはふるさと納税が大きく関わっています。この財源で移住や福祉、産業にお金を回している傾向があります。

道の駅も重要です。人を呼び込む施策が大切です。

**【委員】**

商店街の活性化は非常に重要です。「買い物は町内で」といったキャッチフレーズを作り、町内での購買を促進する必要があります。また、忘年会や新年会も地元で行うべきです。

鉄道は利用者が少ないため廃線になりました。バスも、利用者が少ないと減便されます。

6,000人の町民全員が本別で買い物をすることが、町の活性化にとって重要です。この点を全町民に理解してもらい、地元の魅力を再発見してもらう努力が求められます。

## 7. 次回、審議会について

**【会長】**

ありがとうございます。それでは次に、次回審議会について、事務局からお願いいたします。

**【事務局】**

次回の審議会は、2月の下旬を予定しています。次回は、アンケートが集計されていると思いますので、皆さんに結果をお知らせします。

委員さんにおかれましても、抽出されなかった方は、QRコードで進んでいただければ、答えることが出来ます。

アンケートを見ながらどんな方向へ進めるべきか協議していきましょう。本日は、これにて閉会となります。

皆さん、遅くまでどうもありがとうございました。